



能譜七部集

炭俵

二

5
5625
2



5
5625
2

Handwritten text in a red seal, likely a library or collection stamp.

Handwritten text in a cursive script, possibly a letter or a list of names, written in dark ink on aged paper.

昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏贈

Red circular seal impression, likely a personal or official seal of the donor.



山溪集序

此集を撰りて孤屋野坡の牛らうハ草一り芭蕉の折
りりといひ瓦の家をひくこ心の泉とくまのこく
十好有りて乃文字の群風をとけとあつらふ事也 其
好り冬とのらますやうに秋のここ子なるはけく
火櫛より一炭をぬこす菴とこれよりとけ
宋人の手毫^{カニ}うすくつらさふもくんとまのあき著
し糖^{ツキ}のこやこつらと聖人のまじりて



金房のねり古けよをぬくまよりすらひん
まろ乃もりう身し入けくもつらうのめまのめ
まの是し流のたりやらるるやこれとひはけの
日乃いそあしとり秋の月しうからかぬあけ
や吟詠り篇らりて竟しはつらうのこまは
わつとくまをひくまを有きの流れをあやう
にこいれくみくわくまのまをくまのこま
郎考とかくははく詩のこ義しるまのこま

づらひやしらぬまゝくのもらひしはけりて例の如
 記せしむるものもさうも書かすはあつてさうも
 ひと目芭蓋振りの音途よやけりてさうも書かす
 再との記とせりしはホの集の事よなてそのを
 家の取より先梅の下に下りてあつて度のも
 年とくらうてさうもさうもさうもさうもさうも
 くらうてはくらうてをさうもさうもさうもさうも
 くらうてはくらうてをさうもさうもさうもさうも

五十一の序かしてさうも書かすはあつてさうも
 うかへ其初をとりて頭号をのつてさうもさうも
 けりて年とくらうてさうもさうもさうもさうも
 けりて

元禄七の年夏間さつと初云乃日おれぬ

龍吟の集

誦諧炭俵集上卷

芭蕉

むちうたのつと日乃出る山流る
 まくしり雑子乃啼しるは
 交音情と春のそまをどわけり
 上乃多きわしりめくろま乃五
 雪乃内ほくしとせしる乃全
 最誠たるはあまのはりしり野坡

あひつゝ東のうらさるるわいれんは
 娘を笑う人しりあはれぬ
 ちあらんうらひあかきしりる細丈ま
 こししるあまのあまの六月
 張げん乃みりるあはれむ向はる
 甲しといふ出れば世々もてり
 終るる乃おき物と押ししる
 こんたやんをうらまらるる名月

えつ丁よ糸糸下地 きてしえ 野坡

家子およしし 瓦念ひとぬふ 芭蕉

町流名流らかと 碎てあ乃臨 野坡

門て押 風と 玉生 念念佛 芭蕉

草風と 火 蕪ふいふれと 明き何し 全

あし 若くす け 眩おけり ち 野坡

江戸 若ん たるむも 若亭 若ん 定れて 芭蕉

く 若ん 若ん いれと うら 何と うす 野坡

若し 若し 若し 若し 若し 若し 芭蕉

相 若ん 若ん 若ん 若ん 若ん 若ん 野坡

門 若ん 若ん 若ん 若ん 若ん 若ん 芭蕉

り 若ん 若ん 若ん 若ん 若ん 若ん 野坡

も 若ん 若ん 若ん 若ん 若ん 若ん 芭蕉

み 若ん 若ん 若ん 若ん 若ん 若ん 野坡

若ん 若ん 若ん 若ん 若ん 若ん 芭蕉

な 若ん 若ん 若ん 若ん 若ん 若ん 野坡

こまのちりもふ乃方よりさるをあげ

野坡

美下り食ひしとすのゝ難一炊

芭蕉

子よ晴し一巻しよさきく春水

野坡

未のちり高乃もしてれん毎月

芭蕉

院へさき知しせす塚とてまはる

野坡

屏風乃落子よぬらうの盛

芭蕉

三吟

山嵐雪

雲母の雪 遠織の如きあけり

あけりや 首より 雀 結 雪の如

けり 雪の如き 乃小坂 雪の如き 雪の如

ふを けり 雪の如き 乃小坂 雪の如き 雪の如

る 雪の如き 乃小坂 雪の如き 雪の如

ふ 雪の如き 乃小坂 雪の如き 雪の如

利牛

野波

嵐雪

利牛

野波

流雪を 雪の如き 乃小坂 雪の如き 雪の如

あけり 雪の如き 乃小坂 雪の如き 雪の如

雪の如き 乃小坂 雪の如き 雪の如

雪の如き 乃小坂 雪の如き 雪の如

雪の如き 乃小坂 雪の如き 雪の如

雪の如き 乃小坂 雪の如き 雪の如

雪の如き 乃小坂 雪の如き 雪の如

雪の如き 乃小坂 雪の如き 雪の如

嵐雪

利牛

野波

嵐雪

利牛

野波

嵐雪

利牛

龍俊乃鞠を下せし月之影

野坡

服_三中_一下_二なる_三月_一を_二あ_三ら_四る_五月

嵐雲

御と雨降_レ也_レし_レあ_レる_レの_レ風

利牛

霧_一の_二影_一又_レく_レハ_二又_一解_レふ_レく

野坡

名_一中_二乃_一九_レる_レし_レふ_レ龍_一の_二影_一あ_レら_レる_レ

嵐雲

抱_レ持_レ子_レ乃_レ小_レ原_一を_レ以_レて

利牛

く_レく_レし_レと_レ河_一内_一乃_レ荷_レ持_レ送_レり_レ金

野坡

心_一を_レ以_レて_レ解_レふ_レく_レ著_レる_レせん_レ多_レく

嵐雲

堀_一の_二影_一を_レ以_レて_レ解_レふ_レく_レ著_レる_レせん_レ多_レく

利牛

と_レく_レし_レと_レ河_一内_一乃_レ荷_レ持_レ送_レり_レ金

野坡

遠_一仙_一乃_レ影_一を_レ以_レて_レ解_レふ_レく_レ著_レる_レせん_レ多_レく

嵐雲

比_一ふ_レい_レわ_レい_レ乃_レ小_レ原_一を_レ以_レて

利牛

未_一亦_一若_一の_二影_一を_レ以_レて_レ解_レふ_レく_レ著_レる_レせん_レ多_レく

野坡

乃_レ影_一を_レ以_レて_レ解_レふ_レく_レ著_レる_レせん_レ多_レく

嵐雲

乃_レ影_一を_レ以_レて_レ解_レふ_レく_レ著_レる_レせん_レ多_レく

利牛

今_一乃_レ影_一を_レ以_レて_レ解_レふ_レく_レ著_レる_レせん_レ多_レく

野坡

夢とようつしるせりたるは

山雪

わくわくとゆふのあけし

利牛

語念ふほきつせにさくは

野坡

しとよき志きあふり

山雪

信ある母をほりてさめの陰

利牛

さくさく乃くくは月乃降

野坡

in the dark one is looking

the other is looking at the

the other is looking at the

the other is looking at the

the other is looking at the

the other is looking at the

the other is looking at the

やう川舟
あふれし

孫屋

空豆乃茶枯あに多妻の紙
登乃ふ鶴あそゝぬ海川
上張を過さぬはと乃向降と
了つと乃とけし酒名家申
ら寝安し誰もぬそあそあ自
とくわと唄あそりふあふれと

芭蕉
松水
利牛
老蕉
孤屋

少
おろしに薪乃下ふわあし
鳴乃仕中乃工史に糸たすわ
娘をよいあふくあふく
傍都まんととくまの文をや
月あふあ明うけん啼わわ
原のたすれとあををえんわ
能汁わいの者ああよとあ
茶あああああああああ

利牛
松水
芭蕉
孤屋
孫屋
芭蕉
利牛
松水
芭蕉
孤屋

こ乃まハこやうま名臨かな
 うれし一物を今に非し
 電乃法以さうしあま
 ふしん丸んても乃おん
 不屋よ流と中乃あ
 とつち権をよとあ
 流中よとらうに
 美わはま
 利牛
 袋中
 孤屋
 芭蕉
 新牛
 袋水
 芭蕉
 孤屋

名乃まハこやうま名臨かな
 うれし一物を今に非し
 電乃法以さうしあま
 ふしん丸んても乃おん
 不屋よ流と中乃あ
 とつち権をよとあ
 流中よとらうに
 美わはま
 利牛
 袋中
 孤屋
 芭蕉
 新牛
 袋水
 芭蕉
 孤屋

少乃乃之宿若通わし
 山乃根際若の孤乃乃之
 よこ雲乃乃之風乃乃之
 晒乃乃之り乃乃之
 乃乃之女子乃乃之
 余乃乃之乃乃之

利平
 益水
 孤屋
 利平
 芭蕉
 益水

芭蕉
 孤屋
 益水
 利平

各九句

百韻

利牛

子と裸たててきてよるふ
 山登るいそらのま白に 喉
 るあつわ珠粒魚鱗の鳴りして
 と力町よわむふ海うねの
 平竹の葉多しの紐たわわうと
 三つう龍ねしわぬく人あり
 野坡 利牛 野坡 孤屋

雪る乃月十集名あけちるく此
 挿と法くく標らねし
 ぢぐあふん中てよわおれら海あつ
 坊さしりされどやもわにふしん
 松ぬやま川へとりけく偏わ
 吹し併しつうき園まらぬ
 十二二年乃衣あふ乃あうらぬ
 本堂けいふるさるしとらんし
 野坡 利牛 野坡 孤屋 野坡 利牛 野坡

口乃あゝる方とあゝるむ竹乃免
 孤屋
 只亦懸崖はよ口すくく
 利牛
 迦江路乃くく君河を穿ゆ
 那坡
 天くまの柳よらく、月乃、無
 孤屋
 生たろく赤に折ゆひ、漬
 利牛
 揉乃実る露乃柳好くくく
 野坡
 常赤實乃房ゆ連るまきゆわ
 孤屋
 此歌信くく乃人まゝくく
 利牛

海くこと之口交乃いほい出
 野坡
 海くくくくくくくくくくく
 孤屋
 ない袖を振しみるも抱かぬ
 利牛
 桑羽乃ふもふらうくく
 野坡
 吹くくくくくくくくくくく
 孤屋
 出乃ふ乃くくく今日を大旱
 利牛
 切響乃吟倒くくく極たをく
 野坡
 くくく納豆を仕色、厚く
 孤屋

瘡 日とちきくくもけくく

利牛

あしすけたらりけり重しき

野坡

つとあひるもといやけり

孤屋

とたわ乃衰えんきき井乃本

利牛

かれも月様と負来り古極

野坡

すいき乃もやんあつとつと

孤屋

ふつらととと過りけり

利牛

戸ていり多し凡名乃屋

野坡

浅遠此程と松乃すもあひ

孤屋

赤い小えをあつとつと

利牛

淡色を宿早の男乃為を

野坡

眼を比鳥尾乃汎乃

孤屋

傾橋乃白を

利牛

天満早の女をよとれ

野坡

度袖をよけつとる

孤屋

しり記にすて

利牛

燃き^{ニキ}はるる^{ニキ}を尻長^{ニキ}扱^{ニキ}て

野坡

甲^{ニキ}字五^{ニキ}毎^{ニキ}乃^{ニキ}あ^{ニキ}わ^{ニキ}あ^{ニキ}は^{ニキ}し^{ニキ}す^{ニキ}

孤屋

自^{ニキ}表^{ニキ}乃^{ニキ}か^{ニキ}き^{ニキ}あ^{ニキ}ん^{ニキ}城^{ニキ}乃^{ニキ}江^{ニキ}さ^{ニキ}り^{ニキ}

利牛

強^{ニキ}弁^{ニキ}高^{ニキ}海^{ニキ}中^{ニキ}と^{ニキ}海^{ニキ} 換

孤屋

機^{ニキ}場^{ニキ}純^{ニキ}い^{ニキ}こ^{ニキ}を^{ニキ}底^{ニキ}に^{ニキ}記^{ニキ}し^{ニキ}り

野坡

小^{ニキ}登^{ニキ}さ^{ニキ}ら^{ニキ}ら^{ニキ}ん^{ニキ}乃^{ニキ}さ^{ニキ}ら^{ニキ}静^{ニキ}し^{ニキ}

利牛

根^{ニキ}端^{ニキ}に^{ニキ}腫^{ニキ}る^{ニキ}先^{ニキ}を^{ニキ}存^{ニキ}す^{ニキ}如^{ニキ}て

孤屋

深^{ニキ}ま^{ニキ}ん^{ニキ}待^{ニキ}け^{ニキ}を^{ニキ}念^{ニキ}入^{ニキ}て^{ニキ}み^{ニキ}

野坡

妻^{ニキ}初^{ニキ}乃^{ニキ}替^{ニキ}地^{ニキ}に^{ニキ}海^{ニキ}多^{ニキ}傍^{ニキ}余^{ニキ}抗

利牛

羨^{ニキ}も^{ニキ}も^{ニキ}志^{ニキ}す^{ニキ}手^{ニキ}於^{ニキ}政^{ニキ}中^{ニキ}の^{ニキ}事^{ニキ}

孤屋

物^{ニキ}毎^{ニキ}由^{ニキ}不^{ニキ}持^{ニキ}乃^{ニキ}な^{ニキ}れ^{ニキ}ハ^{ニキ}た^{ニキ}て^{ニキ}あ^{ニキ}ら^{ニキ}に

野坡

又^{ニキ}内^{ニキ}高^{ニキ}ま^{ニキ}ん^{ニキ}古^{ニキ}と^{ニキ}名^{ニキ}い^{ニキ}し^{ニキ}と^{ニキ}色^{ニキ}

利牛

故^{ニキ}ま^{ニキ}ち^{ニキ}早^{ニキ}ん^{ニキ}う^{ニキ}に^{ニキ}上^{ニキ}れ^{ニキ}と^{ニキ}二^{ニキ}そ^{ニキ}う^{ニキ}統

孤屋

今^{ニキ}も^{ニキ}も^{ニキ}さ^{ニキ}ん^{ニキ}い^{ニキ}し^{ニキ}て^{ニキ}あ^{ニキ}ら^{ニキ}に^{ニキ}あ^{ニキ}ら^{ニキ}わ

野坡

爲^{ニキ}る^{ニキ}を^{ニキ}思^{ニキ}ふ^{ニキ}と^{ニキ}す^{ニキ}ん^{ニキ}に^{ニキ}あ^{ニキ}ら^{ニキ}に^{ニキ}あ^{ニキ}ら^{ニキ}わ

利牛

一^{ニキ}つ^{ニキ}た^{ニキ}ら^{ニキ}し^{ニキ}結^{ニキ}乃^{ニキ}と^{ニキ}あ^{ニキ}ら^{ニキ}わ

孤屋

野坡 新乃月

利牛 新乃月

孤屋 新乃月

野坡 新乃月

利牛 新乃月

孤屋 新乃月

野坡 新乃月

利牛 新乃月

孤屋 新乃月

野坡 新乃月

利牛 新乃月

孤屋 新乃月

野坡 新乃月

利牛 新乃月

孤屋 新乃月

野坡 新乃月

野坡 新乃月

利牛 新乃月

孤屋 新乃月

野坡 新乃月

利牛 新乃月

孤屋 新乃月

野坡 新乃月

利牛 新乃月

孤屋 新乃月

野坡 新乃月

利牛 新乃月

孤屋 新乃月

野坡 新乃月

利牛 新乃月

孤屋 新乃月

野坡 新乃月

大乃あぐくに知の砂乃れして

利牛

の年を捉しきぬ柄の木

孤屋

まを金た弓口心乃あをる純

野坡

九九十の海成わのりふ

利牛

扱折ももろくまをたつてし

孤屋

足あし一棊條より清にま

野坡

里離と鳴れ引乃がうつてし

利牛

やううのを娘乃得も

孤屋

ふらふら月かたの枝色若

野坡

うんち果るるハガ乃い

利牛

丁寧に仙鹿儀乃口い

孤屋

所沼の海へ出るにたき

野坡

夕月に醫者もあまをま

利牛

句てさるは鏡乃やきもの

孤屋

定免を今年も月よ懸屋也

野坡

もとや仕る人もたぬゆと

利牛

異^ス 高^ク 君^ノ 舞^ハ 土^ノ 用^ヲ 之^ノ 事^ヲ 行^フ 所^ノ 也
 貴^ク 月^ノ 光^ヲ 乃^チ 之^ノ 輝^ク 乎^カ 也^{ナリ} 故^ニ
 城^ノ 也^{ナリ} ぬ^レ 祖^ノ 伝^ハ 屋^ノ の^ノ 之^ノ 世^ヲ 乃^チ 名^ヲ 傳^ハ じ
 川^ノ 建^ル 之^ノ 所^ニ 町^ノ の^ノ 古^ノ 蹟^{ナリ}
 彼^ノ 居^ル 邑^ノ 一^ノ 里^ノ 乃^チ 名^ヲ 名^ヲ 傳^ハ じ 之^ノ 也
 之^ノ 人^ノ 大^キ 乎^カ 一^ノ 里^ノ 乃^チ 名^ヲ 名^ヲ 傳^ハ じ 之^ノ 也

孤屋

野城

和牛

孤屋

野城

和牛

此ノ 記 述 乃 祖 傳 之 蹟 也
 貴 月 乃 輝 乎 也 故
 城 也 ぬ 祖 傳 屋 之 世 乃 名 傳 じ
 川 建 之 所 町 之 古 蹟
 彼 居 邑 一 里 乃 名 名 傳 之 也
 之 人 大 乎 一 里 乃 名 名 傳 之 也

春之部 後句

多末

花も来りてはもや伊勢若知使

若菜

春も来りてはもや伊勢若知使

若菜

春も来りてはもや伊勢若知使

若菜

春も来りてはもや伊勢若知使

若菜

春も来りてはもや伊勢若知使

若菜

いろこしきまを春乃かきそを

大後 酒堂

吟つてや本音乃くをいの持り

松水

春の来りてはもや伊勢若知使

若菜

春の来りてはもや伊勢若知使

若菜

春の来りてはもや伊勢若知使

若菜

春の来りてはもや伊勢若知使

若菜

梅

梅一もつとくし草乃りあめうな

露沾

むめ咲や何乃梅本もよきまら

曲終

むめう香の糸にばらまらまの月外

支考

寒乃うらむ みこし

むめしらむいふ乃是まりの月ん

早賀
土サ

梅はふと過風の山ゆきまのを引り

利牛

赤みうさるいそをぬるむめのみ

歌

みまふしり咲うらりいを梅のみ

野波

あ梅まへ嬉しませる事あ戸外

松風

あまのこころもの
せくはるをよをみし

さとしまるも梅より白つらまか

山車

さよふ梅のいさうけりて何れ

野波

うらむれしあうたよ梅おまへ睡し

仙杖

海古乃文三十一

海古一三つもわくこま

去来

大くや 疎乃 出しす小 勝 内

傍 文州

少海乃内才... 中名

仙花

海川入る

吉岡中や... 一

利牛

十五口もや 勝乃乃 古子 養

大坂 之石

猪乃 庭 初 乃 一

野坡

好く 是 子 乃 一

吉角

鸞

う 云 乃 一

岩雷

号 乃 一

其石

う 云 乃 一

枕傍

うらひにや門をたぎく 豆腐 野坡
雪もふりてふりし由入るるも 利牛

柳

こぼりをもつらして挿し 柳家 湖春
藤ふと一、月乃木ひらけふふ 吉成
お人方ちとわてしきよし 柳一子 野坡

世きよい乃尾を足付き 柳北 一風
町大りうへきよし 宿 多の柳 利牛
人華 け柳 わるふとく 柳 多の 芭蕉

椿

とことぬ 結羅子 ちぬ 椿 多の 孤産
枝もく けぬ ぬを 椿 多の 湖春
念入し 多の けぬ 多の 芭蕉

振りし〜みせてもつ〜
 龍雲
 春のあゆみ〜
 志者
 春のあゆみ〜
 野坡

花

春のあゆみ〜
 春のあゆみ〜
 春のあゆみ〜

春のあゆみ〜
 芭蕉
 春のあゆみ〜
 杉風
 春のあゆみ〜
 大野
 春のあゆみ〜
 志者
 春のあゆみ〜
 去来
 春のあゆみ〜
 孤屋

ありしとあえりてはるる
 大うれてもあめりて
 柿乃ちあめりてはるる
 牡丹すく人もあえりて
 ありてあめりてはるる
 ありてあめりてはるる
 やあめりてはるる
 考得もあめりてはるる

新二

新炭

山技

湖名

其力

鹿雪

大伴

之反

誰母もあめりてはるる
 山極お川花とほおあめりて
 昆布たしやあめりてはるる
 おらつてもあめりてはるる
 形ふもあめりてはるる
 ありてあめりてはるる
 ありてあめりてはるる

話南

常全

和牛

全

孤

所

全

上巳

弟は川乃女をいひて

流法

登りありてふも也りてこの推乃を

推乃

ふつとさ乃神をいひてさるの離

其乃

畧りありて、解を尋るもひるをい

其乃

日津路をいひてさる也推乃を

其乃

推乃をいひてさる也推乃を

其乃

又法也といひてさる也推乃を

其乃

手物乃、推乃をいひてさる也

其乃

歌しうい

歌しうい、人亦たむ小あゆみ

其乃

さる也推乃、推乃をいひてさる也

其乃

さる也推乃、推乃をいひてさる也

其乃

さる也推乃、推乃をいひてさる也

其乃

ものりやけりし温や風乃末

孫維

草花よきし草花乃ま乃口花多

仙華

旅りし

江波場を境わ内ハまき成

野波

此集のよきし草花乃ま乃口花多

月夜のきつたにふ川がまをみまわし

子らこやあこころしあもあなるし

野波

旅りよきし草花乃ま乃口花多

利牛

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '草花' and '月夜'.

夏朝之教自

首夏

詠うを乃東路に見し衣う
 衣う二十日とやこいあはしう
 綿を女く接ぬせし衣更
 推しわやれまきあやむ
 妻乃泣けさえよ母のあがりな

嵐雪
 那坡
 九節
 雪芝
 子母

康智乃妹の髪白し衣いふ
 和牛

う乃菜

卯ころあやうき物ま及ぶ
 う乃をあふの髪乃あしう
 芭蕉
 去十

張のう

う乃あはし其毛のう
 詩三

卯うさぎの足らぬに相ありしをうさぎの足らぬにうさぎ

卯うさぎ

掉たふ乃の被ひえは七しちのの海うみかか下くだうう海うみ

湖春

菟うさぎ家いえ池いけ子こ甘あまささあるある心こころももああ

菟家

いいくくららいいやや行ゆききもも暮くららにに老らうをを吟ぎん

芭蕉

郭かく

波なみすすむむちちのの階かゝににぬぬるる海うみももいいんん

柳舟

ほほいいききんん一いち二にもも鴨鴨ののおお明あききももああ

其布

初はつ燈とうをを月つきももああららききんんほほいいんん

嵐雪

挑てう灯とうのの光ひかりにに冷ひやたたししほほいいんん

杉風

ままいいろろれれててああまま揃揃ももああららききんん

芭蕉

青あおいいろろももああららききんん

素龍

つるを 啼りし 風が 雨に なる
子規 歌乃 出され ぬ 格 子 引
野 坡

麦

掃るに 麦穂 いれ や 化 ざり
麦 乃 穂 色 花 いろ しく ぬ 籠 浮 山
麦 田 名 甲 穂 也 運 せ 寄 と ぶ
許 六

新 ころ 麦乃 白 色 也 宿 名 内
利 牛

麦 亦 也 出 ぬ け し も 花 麦 乃 中
野 坡

浦 宿 也 出 ぬ け し も 花 麦 乃 中
益 水

湯午

みりあや傘にけりる山人

其角

さう一きくみやほきら風の色

大坂 酒壺

みりあや傘にけりる山人

龍隣

えもちづく口上もたし

嵐雷

みを乃やち、龍乃中りく甲か道

仙花

惟子と、志しつわらゝるる

素新

夏旅

草花をみうんそ町乃あ州はる

即心

枯葉のしるるあつー

新屋

二ふたあ

亭

まけい乃力及えぬあ州はる

猿垂

まじの地やふ

色道

しるるあ

五月雨

雨やれぬとをり入るをなす

土糸植

あまのよもぎ色やと川大和川

柳渡

けしきれり少納をにきり

野村

五月のやぶ乃高上も

嵐山

このころの物産もさきとくぬ

五月のやぶ乃高上も

雲水

涼

川中代根本にさるふすみ外

芭蕉

月影にうごく夜あやみのま

うた

涼しいけしきもさきとくぬ

かき

り花をさきとくぬ

探芝

涼風をさきとくぬ

智月

まじりてさきとくぬ

元景

てしき 浮洲 志ん 乃 街 之 之
夕 子 丹 安 少 志 志 石 上 乃 浮 乃 乃
三 月 自 志 陰 志 志 志 志 志 志

云来
野坡
素堂

~~~~~

栢 也 之 志 志 志 志 志 志 志  
志 志 志 志 志 志 志 志 志 志  
世 乃 中 也 自 負 志 乃 乃 乃 乃 乃

松風  
正秀  
里奈

子 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

山嵐

~~~~~

也 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志
志 志 志 志 志 志 志 志 志 志
志 志 志 志 志 志 志 志 志 志
志 志 志 志 志 志 志 志 志 志
志 志 志 志 志 志 志 志 志 志
志 志 志 志 志 志 志 志 志 志
志 志 志 志 志 志 志 志 志 志
志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

詩之
智月
山根
山形
六竹
仙花

いふれ燿もうららつてわつたあそ

楚舟

さりさる 暖くくさるる 春のふゆ

残香

猪乃一牙にりちりさるる 蘇子よ

乃有

園を香、侍所乃あつてさ、うたよ

少風

けくさむり 鈴も 揺ゆ 中の家

祐甫

一枝もすけなふ 竹もわらへんが

仙花

竹もあや 児も 出るる 乃らつて

嵐雪

主人 僕ら

僕ら 何をたしあつて

あつて 梅のあひて 後世にむすぶに

あつて 心に、それをも 知しあつて

あつて 心なすとも 知らるか ありをえあつて

あつて せつれえれえ けをらきつて

酒の 名もつて あつて

利半

あつて 人のあつて 隠すいさなをえあつて

あつて 和してあつて 一もあつて

あつて 心もあつて あつて

行中をねてあつて 野坡

野坡

The first part of the book is a
 description of the various
 and the most important
 in the history of the
 world. It is a very
 interesting and useful
 work.

The second part of the book is a
 description of the various
 and the most important
 in the history of the
 world. It is a very
 interesting and useful
 work.

The third part of the book is a
 description of the various
 and the most important
 in the history of the
 world. It is a very
 interesting and useful
 work.

詠諧炭俵下巻

梅之部

秋のつれいつゆくのちり
月を散し時俵のたしと
しつこす

名月

明月也 見つるもみよのあふさ
名月也 撮^エ取よハナノ春の處^ち
家賞こころし 見初る月也外
湖春 去来 荷今

名月也 流^ユる 流^ユる 流^ユる
おほや け^キけ 揚^ユる け^キけ け^キけ
りら け^キけ け^キけ け^キけ け^キけ
家^ケこころ け^キけ け^キけ け^キけ け^キけ
むきしめ け^キけ け^キけ け^キけ け^キけ
見^ミけ^キけ 望^ノき^キけ 不^フ書^シけ^キけ
明月也 不^フこ^コみ^ミゆ^ユる け^キけ け^キけ
去来

七夕

都のくふ花介ともなうしつり

其の

里人よもむしむおむかぢめ

孤屋

とまぢあつらふらふ

嵐

壺

あまのついでにふりあむ

海

砂くさくはとよハ碎てらるる

つれなき

ささの月あつらふらふ

水

朝

朝

朝のくさくはとよハ

若菜

あつらふらふ

新

あつらふらふ

朝

秋虫

あふれとあふはうしうきあけ

春日

ほいよ人のとくれやまうく

大甲

塔帳りくしてあふらあうこま

あふ

こころきやあきとまやうあの上

あふ

舟

あふれのをしをえらあふあふ

舟

あふあふあふあふあふあふ

舟のあむはあああああああ

あふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふ

草花

さくら 節のさくらさくらさくら

桃流

ふしきささぎささぎささぎ

孫音

片雲のさやけさやけさやけ

佳雅

さくらさくらさくらさくら

むら

さくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくら

園

さくらさくらさくらさくら

さくら

さくらさくらさくらさくら

さくら

さくらさくらさくらさくら

さくら

秋 栴 丸

神のさくらをふとせのまをら

利也

霧 粟やぐりうきしを甲

佐春

お風やあまの扱めなりし

本也

雲ふりてまよきりし神の栴

流也

雲ふりてまよきりし神の栴
 霧 粟やぐりうきしを甲
 お風やあまの扱めなりし
 神のさくらをふとせのまをら
 利也
 佐春
 本也
 流也

ついで

おぼろげな月も 秋のこころも 遠く

水辺のふも 葉のふるも しのび

薄くも 色はぬの ちりり 西風

はのくれり ちりり ちりり ちりり

草のむら 葉のむら 思ひのむら 秋の

又も ちりり ちりり ちりり ちりり

ちりり ちりり ちりり ちりり ちりり

秋の ちりり ちりり ちりり ちりり

危丁の ちりり ちりり ちりり ちりり

冬之部

初冬

風やゆよささよ山のこゑ

共角

市中也木の葉も落すしり風

地院

冬風の紙よと初冬と侍らぬ

芭蕉

松木や流石より冬 とうとう

お翠

松力葉のこゑりりきや小ねくま

御茶

刈 蓄えの乾のこゑさうむすし水

柳亭

風力さうくこゑさう 水さう

孫太

みさるや指のこゑさう 水さう

水さう

田也 野志けりて 指の 面

八景

みさるさうりて

ま抗力泥さうりて 指の 水さう

地院

水さうりて 水さうりて

柳亭

時取

草の根の後にしるしをいれしるし

思ふにわしの河のぬのりさる

草の根

わの草の根のぬのり

りぬのり今もいれしるしをいれしるし

をいれしるしをいれしるしをいれしるし

新あゝる

小の根のぬのりぬのりぬのりぬのり

大根引

大根引のぬのりぬのりぬのりぬのり

大根引のぬのりぬのりぬのりぬのり

大根引のぬのりぬのりぬのりぬのり

はむさ とあのかた
よ

人々のねまを こころ は は は

ふは は は は は は は は は は は

き き き き き き き き き き き

利半

き き き き き き き き き き き

き き き き き き き き き き き

き き き き き き き き き き き

き き き き き き き き き き き

き き き き き き き き き き き

き き き き き き き き き き き

五三

序

とつちふふとちうりもきんくしきふも 世に

ゆふのえちもふよの真一から 別中

とつちや海力のゆきかきよのと 雲山

雪のりくを信し 懸懸 強く

ふのくもふりまふりしきんし 秘録

ふのくもふりまふりしきんし 秘録

移のちのこき 移りのふの 小春

春のちやんきんかたりあまの 少秋

とつちやんきんかたりあまの 津六

景美の情所さるる雪吹れ 水子

はらのそふりきり 二引

おのふや申 雲一 雲一 雲一 雲一 雲一 雲一 雲一 雲一 雲一 雲一

題不知

さうりとの物くお色枯形

楚言人
呂也

とと事や物縁のしる 向の徳

巻五

顔門のきそ徳みりす十おひ

徳、也

お大妓の盛ぬととよふし

徳月

たうものとうりきおれお杉のそ

と也

栲め方やあつさ方の方五右左

屋中やととく大能のあつた五

徳、也

徳姫えんし何と神一也

あつたあつたあつたあつたあつた

しんしん

煙くさへこち棚つる火とま

芭蕉

旗押しこゝろはるはる

春

所つゆえぬねとまゝ殿ん

少

山外のとちよとちよ

春

侍まの火まゝしんしん

春

歳暮

このれとよくちあし

杉尾

とくまをぬき

春

まへにせめて

春

深ゆへのけり

春

こゝのふか

春

ゆめくれ

春

老其乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

於羅下 註のさうんらんめく
 居のりく 條 ちく、あし
 まくしの梅付 桂のふもみし
 むしーのふあひのさうもせて
 りとふ 汝あさる金のうら
 くの條のあしー 10
 なるまのがさうしめやれ
 あしーとさく 小信らあふ

くのさうまの條のほもさうらて
 ちーときさうし ちん ちん
 君さあえこつれ 汝あさる金のうら
 輝と 絶とのうらあつ
 ちん 條へ 雀のこり、 ぬのぬ
 ちん ちん 月のさう
 紙 燭してさうし ちん ちん
 ちん ちん ちん ちん

まき下

七

小舟は清む所をよせてまゐり

其の

まゝもゆるはるのよぬ

おん

あはれもよきまゝに

あゝのよきまゝに

このまゝに

おん

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

昔

年

名ナラフ

天中氏母方

如

石くり拾ふあつてし葉らま

えししふのさうまれか

入月とおはるんのとすり

海の外かきし物めいり

初まわらふまよらぬて

いよ路しるるものしや

如

如

如

如

如

血のまをいしるんかま

ゆくふなれと長谷を

まじわと者も書に

いふわらうハ

いふふりよハ

ふいしるし

えんらわと

鏡ちるわ

如

如

如

如

如

如

如

如

Handwritten mark

Handwritten mark

けりしす念仏とてゆらぎの
 野よりとてしきとあきあき
 入のぬ肩のたえ葉なとあき
 見えやふしむしやもも
 ぶか早の構ふち柳ハよあまし
 ちかみのちかちかんとあき
 實也しとあきしや新し
 ぬらしとあきと無さか

新牛
 柳野
 柳野
 柳野
 柳野
 柳野
 柳野
 柳野

七公のさふききしとあきの
 杉のよまあきしとあきの
 けりしとあきのとあきの
 ちかちかちかちかちか
 ちかちかちかちかちか
 ちかちかちかちかちか
 ちかちかちかちかちか
 ちかちかちかちかちか
 ちかちかちかちかちか
 ちかちかちかちかちか

柳野
 柳野
 柳野
 柳野
 柳野
 柳野
 柳野
 柳野
 柳野

手

手

櫻おーい 紅んこーろ 家回 終

柳路

傍を 澄んて 今も ちりて

柳手

影を 澄んて 今も ちりて

柳手

先陣 ありしと ぬゆー 入ふ

柳路

ゆて ちりて きの ちりて

柳手

ちりて ちりて きの ちりて

柳手

沐て日方

柳川をくすぶ興

芭蕉

振舞の序らるれしきん居

降してハヤと世をすも朝

由良の後の小巻をけりて

川をゆふり月をみらま

好物の序を結まぬあまの風

新木にあまふゆのこまふま

芭蕉
新平
新平
新平
新平
新平
新平
新平

綱の者をつこふりあまうけし

皇とくくくくくくくくくくくく

いこくくくくくくくくくくくく

淡色の高くくくくくくくくく

吹くくくくくくくくくくくく

肩を舞ふくくくくくくくくく

上をまの干葉をくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

新平
新平
新平
新平
新平
新平
新平
新平

緋雲の七つはらりとまるとれり
 堀ノ糸門あらふや石瓦
 比喩の御鬼もよと御月もよ
 砂山 晴のうつろまき
 新島ハタの喜ハタもよらつてまのよ
 吹さらんれら
 川 雲の帯一のふをあらまの
 糸一地のきめらうてり

新牛
 糸瓦
 新牛
 糸瓦
 新牛
 糸瓦
 新牛
 糸瓦
 新牛
 糸瓦
 新牛
 糸瓦

干ぬを口向のまらうせり
 堀おし 野の巻ふらうま
 美月よほせらうま
 又りけるらうま
 ぞらうま入海ウミのうらぬ
 きらぬのこのむねのたうま
 申しうて信シ 人の信らうま
 雲をうてらうま

新牛
 糸瓦
 新牛
 糸瓦
 新牛
 糸瓦
 新牛
 糸瓦
 新牛
 糸瓦
 新牛
 糸瓦

用をこし結の露の尻より
 細うすみの糸をくくゆる
 ちうはくと羊の揚場より
 月星よりりのつきのあらしや
 こもりのまのなか中
 湯炭のらりをくらぬまゆ
 利牛 狐尾 牙は 芭蕉

芭蕉
 野波
 狐尾
 利牛

各の白

利牛

杉風

千尋の松樹をこけ口みまてあそびし
 日のあけよへのあそびをうし
 下書を一紙信よすかた
 ありしとまじし大名の侍
 男とあそぶものふじくを丹お
 筆をうしれてひろきと名に
 杉風
 松屋
 老道
 子母
 杉野
 利平

熊谷の境まねしとあそぶ
 笑うららしむ響ききき
 二とあそぶあそびのあそび
 くのきききききききき
 竹の皮きききききききき
 移よこのまねるものまね
 ふふあいの一人もあそぶ
 さらさらあそぶあそぶあそぶ
 熊谷
 生皮
 子母
 水園
 石道
 杉凡
 中道
 利平

五の月のをかざりて 鶴 ちよ
 宵中一のちる 雲をふ八の
 葉もいらのさうつ 上よあらうて
 川うすくふ 小鉢 りくさる
名 ちよちよれくちよ 鶴ののち
 春戸へとれえふ 一り みら
 おとんちし 考くと 読くく
 五の月のて 八の月のさ 鶴の口

解まを搦て 儀へ ちちり とみ 柳 鶴
 わざく ちをと 業代 のれ 儀と
 ちちあてく ばと ちち 儀と ちちし 法 圃
 とちち ちちて 火を ちちて ちち 子 母
 ちちちち ちちの ちちて ちちを 明 初 牛
 換ちちち して 儀と ちちち 杉 凡
 大ぬの人よ ちちち ちちちの 日 初 合
 ちちちと ちちれん 初 母の ちちち 入 初 皮

たきあからぬ葉のり宿のくけりあ
次の小松尾にうつよむきりる
物重よりみりぬれ、改し冷れ
七つのいねりかききりる
あのをあきよ内よ降りあし
甲さのりききりる

る
杉
杉
杉

杉尾 五
杉尾 二
芭蕉 一
不狸 五
柳影 四
利牛 二
竹山 二

野波 二
花園 二
名乗 二
利合 二
依 二
芳久 二

撰者芭蕉門人

志之氏

野

坡

小泉氏

孤

屋

池田氏

利

牛

元祿七歲次甲戌圍

六月廿八日

